『古事記』中つ巻　崇神天皇　【出典：倉野憲司校注『古事記』（岩波文庫）2007, pp.112-113.】

以下のテキストを読んで、古代日本社会の王権と祭祀について推論をおこないレポートにまとめなさい。

この天皇の御世に、疫病多に起こりて、人民死にて尽きむとしき。

ここに天皇愁ひ歎きたまひて神牀に坐しし夜、大物主大神、御夢に顕はれて曰りたまひしく、「こは我が御心ぞ。故、意富多多泥古をもちて、我が御前を祭らしめたまはば、神の気起こらず、国安らかに平らぎなむ。」とのりたまひき。

ここをもちて駅使を四方に班ちて、意富多多泥古と謂ふ人を求めたまひし時、河内の美努村にその人を見得て貢進りき。

ここに天皇、「汝は誰が子ぞ。」と問ひたまへば、答へて曰ししく、「僕は大物主大神、陶津耳命の女、活玉依毘賣を娶して生める子、名は櫛御方命の子、飯肩巣見命の子、建甕槌命の子、僕意富多多泥古ぞ。」白しき。

ここに天皇大く歓びて詔りたまひしく、「天の下平らぎ、人民栄えなむ。」とのりたまひて、すなはち意富多多泥古命をもちて神主として、御諸山に意富美和の大神の前を拝き祭りたまひき。

また伊迦賀色許男命に仰せて、天の八十平瓮を作り、天神地祇の社を定め奉りたまひき。

また宇陀の墨坂神に赤色の盾矛を祭り、また大坂神に墨色の盾矛を祭り、また坂の御尾の神また河の瀬の神に、悉に遺し忘るること無く幣帛を奉りたまひき。

これによりて役の気悉に息みて、国家安らかに平らぎき。

注

1) 「疫病」流行病。
2) 「神牀」夢に神意をえるために忌み清めた床。
3) 「大物主大神」三輪山に鎮座する神。後出の「意富美和の大神」も同じ。
4) 「神の気」神のたたり。
5) 「河内」大阪府八尾市近辺。
6) 「御諸山」奈良県磯城郡三輪山。
7) 「宇陀」奈良県宇陀市。
8) 「大坂」奈良県香芝市逢坂。